

桜づつみ について(花の種類・本数・特徴など)

令和7年3月 現在

番号	開花時期	開花期	本数	名 称	花形	樹形	花の大きさ	花色	特 徴
1	(早春)	3月上旬	21	河津桜(カワヅザクラ)	一重咲き	傘状	大輪	紫紅	早咲きとして有名で花期は1ヶ月と他の桜に比べて長い。カヒザクラとオオシマザクラの自然交雑種と見られ、静岡県河津町に移植され名付けられた。
2		3月中旬	4	紅枝垂(ベニシダレ)	一重咲き	枝垂れ状	小輪	濃紅	個体によって紅色の濃さや花の形などに変異がみられる。
3		3月下旬	14	陽光(ヨウコウ)	一重咲き	広卵状	大輪	鮮桃色	第2次世界大戦中に学校教員であった愛媛県在住の高岡正明が、病害虫や寒暖に強い桜を目指し、日本原産のアマギヨシノとカヒザクラを交雑させて作出した品種で、戦死した生徒たちの冥福を祈り、不戦を誓い平和のシンボルとして各地に送られたことで有名。
4	(陽春)	4月上旬	16	染井吉野(ソメイヨシノ)	一重咲き	傘状	中輪	淡紅	大島桜と江戸彼岸の雑種で伊豆半島で自然にできたものを染井村の植木屋が持って帰り、苗を増殖。
5		4月上旬	19	陽春(ヨウシュン)	一重咲き	傘状	中輪	淡紅白	染井吉野として植えられた中から愛媛県東温市(旧川内町)の高岡正明により発見された。
6		4月上旬	3	神代曙(ジンダイアケボノ)	一重咲き	傘状	中輪	淡紅白	ジンダイアケボノという品種名は神代植物公園と旧名であるアケボノに因んで林弥栄により名付けられ、1991年(平成3年)4月に日本花の会の会報である「花の友No.41号」で発表された。
7		4月中旬	5	御室有明(オムロアリアケ)	一重・八重咲き	盃状	大輪	淡紅	一重と八重咲きの株があり、八重咲きのものを八重御室有明と呼ぶこともある。花(鼻)が低いことから、「お多福桜」とも称される。
8		4月中旬	25	御車返し(ミクルマガエシ)	一重・八重咲き	盃状	大輪	淡紫紅	後水尾天皇があまりの美しさに御車を返してご覧になったことに因む(一重と八重の論争とも)。
9		4月中旬	19	白妙(シロタエ)	八重咲き	盃状	大輪	白	染井吉野が終わってから栽培されていたものが、現在の栽培種の元となっている。
10		4月中旬	44	松月(ショウゲツ)	八重咲き	傘状	大輪	淡紅白	花の端が赤く中心は白くなり、花はある程度の集まりをつくり下に向かって垂れて咲く。
11	(晩春)	4月下旬	176	関山(カンザン)	八重咲き	盃状	大輪	濃紅	海外でも広く栽培されている。また、お祝いの席で出される桜湯にはこの花の塩漬けが用いられる。
12		4月下旬	3	御衣黄(キョウイコウ)	八重咲き	盃状	中輪	緑黄	緑黄色の花色が特異なため、古くから栽培されていたものといわれている。
13		4月下旬	84	普賢象(フケンゾウ)	八重咲き	盃状	大輪	淡紅	花の雌ずいの先端が曲がっていて、普賢菩薩が乗っている象の鼻に似ていることに因む。
計	—		18	不明					
計	3月上旬～4月下旬		451	13種	一重・八重咲き	4パターン	小～大輪	8色	<周辺情報>半造川142本、諫早小12本 桜づつみとの合計602本

